日韓国際結婚家庭親子の言語とアイデンティティ
―留学経験と移動の経験を持つ家族の事例を通してー

梁正善（西南学院大学　非常勤講師）

１．はじめに

今年、複言語話者という視点から言語とアイデンティティの関係を論じたものは増えつつある。本研究の研究協力者は留学経験を持ち、移動を経て異言語異文化能力を身につけた日韓国際結婚家庭の親子である。日韓国際結婚家庭の親と子どもは韓国語に対してどのような意味付けをしているのか。二つの文化が常に混在している日韓国際結婚家庭の親自身と子どものアイデンティティはどのように形成されるのか。ライフストーリーと言語ポートレートを通して明確にし、国際結婚家庭という環境に生きる家庭の主観的意味世界を探求する。

そこで本研究では、母語教育、子どもの国籍と名付け方、親の国籍、親の名乗り方、教育観はアイデンティティにどのような影響を及ぼすのかを検討する。

２．調査概要

2.1　研究協力者

本研究の研究協力者は、日韓国際結婚家庭の中でも親（父親と母親）が両方とも留学経験がある５家族を対象とした。研究者の詳細のプロフィールは、以下の表の通りである。

インタビュー研究協力者のプロフィール

	結婚年数	滞日年数	滞韓年数	出会国	留学経験＆移動経験	妻		夫		第１子	第２子	子どもの国籍	家庭の主言語	帰国の回数
E家族	9年	14年	夫：1年	日本	妻:日本交換留学１年、国際交流員５年 夫：韓国交換留学１年	39歳 修士	大学講師（非常勤）	41歳 修士	大学職員	4歳 幼稚園 (年少)	✘	日本	韓国語	年に１～２回
G家族	10年	11年	妻 2年	韓国	妻：韓国１年、お仕事１年 夫：中国留学４年、香港留学２年、イギリス留学１か月	38歳 大学卒	会社員	38歳 大学卒	会社員 (契約社員)	7　歳 (小1)	✘	二重国籍	主に韓国語	年に1～2回
H家族	7年	12年	妻留学5年	日本	妻：韓国留学５年 夫：カナダ留学１年	43歳 大学卒	会社員	40歳 大学卒	会社員	5歳	✘	二重国籍	日本語	年に１回
I家族	6年	2年4ヵ月	妻：留学1年結婚	日本	妻：韓国留学１年 夫：日本留学２年	31歳 大学卒	主婦 (現在：パートタイム)	34歳 大学卒	就活中 （　現在：IT企業）	3歳	✘	二重国籍	日本語	年に１回

J 家族	5 年	7 年	生活 2 年間	日本	妻：ニュージーランド 1 年間、カナダワーキングホリデー（WH）2 年間 夫：日本留学 2 年 6 ヵ月、仕事 4 年半	37 歳 大学卒	主婦	33 歳 大学卒	会社員	3 歳	7 カ月	二重国籍	日本語	年に 1 回

2.2　調査方法

本研究では、インタビューは非構造化インタビューで、留学経験や移動の経験、国際結婚に至る経緯、家庭内での言語使用、継承語教育、育児、教育価値観等を中心に、ライフストーリーを話してもらった。なお、言語ポートレートを通して言語とアイデンティティがどのように構築されているのかも調査した。調査は 2018 年から 2022 年 12 月にかけて、一家族 1 時間から 4 時間で実施した。コロナウィルス流行前には対面でその以降は Zoom というツールを使用した。

３．結果

本研究では、留学経験と移動の経験を持つ日韓国際結婚家庭の親子のアイデンティティは言語能力により形成されるだけではなく、言語能力以外の文化的要素によっても決定されていることが分かった。また、日韓国際結婚家庭の親が留学と移動の経験があっても、子どもへの言語と文化的アイデンティティ継承は、各家庭の状況や親の価値観、教育観などによって異なる。日韓国際結婚家庭の子どもの学校選択は、親の留学や移動の経験によるものではなく、各家庭の状況と親の教育観によって異なる。永住による日韓国際結婚家庭の親のアイデンティティは、二つの文化と言語が共存（尊重）し合っているアイデンティティである。

研究協力者の言語ポートレートを身体部位別に分けてアイデンティティとの関連性を分析すると、頭と心臓（胸、心）に韓国語と日本語を描き自分の核（中心）であることを示した。さらに、腕と手で日本語（母語ではない生活言語）を人生の道具として位置づけていた。尚、足（脚）に自分の母語（日本語や韓国語）を描くことは研究協力者の礎という意味合いで捉われる。

４．考察

子どもは成長過程であり、アイデンティティ形成には親の価値観や考え方は深く関わってくると考える。しかし、今の段階で親と関わりで言語と文化継承がつながると断言できない。既に成人した子どももモビリティの経験により、アイデンティティは流動的に変わる要素が大いにあると考えるため、継続的な研究が必要である。

また、韓流ブームとメディアの発達により韓国の文化をいつでも触れることができる環境にあるため日韓国際結婚家庭の韓国人の親は韓国人のアイデンティティを保持することが可能であると考えられる。

参考文献

川上郁雄・三宅和子・岩崎典子（編）(2022)『移動とことば 2』くろしお出版

鈴木一代（2012)『成人期の文化間移動と文化的アイデンティティ』ナカニシヤ出版

花井理香（2016)『国際結婚家庭の言語選択要因―韓日・日韓国際結婚家庭の言語継承を中心としてー』ナカニシヤ出版

三宅和子（2022)「名前をめぐるアイデンティティ交渉」川上郁雄・三宅和子・岩崎典子(編)『移動とことば 2』pp.16-44.くろしお出版